

令和6年度地域活動サポートセンター活動状況報告（1月31日時点）

事業名	概要	現状報告		成果	課題	今後の取組み
介護予防運動活動支援事業	運動を主とする身体活動を通し、地域への介護予防活動を推進する。	ボールンピック大会	・予選会 100チーム、参加者693人 ・本大会 15チーム、参加者200人 延べ活動サポーター数 78人	予選会は各地域の公民館で行うということが浸透していることに加え、新しい地域からの参加もあり、予選会参加人数が増えた。	シニアクラブと連携して、参加地域を増やしてきたが、シニアクラブ連合会に属していない地域の参加がほとんどない。	予選会：令和7年9月中旬から10月下旬 決勝大会：令和7年11月上旬 上記の日程で各地域の公民館等での予選会、市民体育館での本選を実施。出場のない地域へは積極的に声掛けを行う。
		軽運動啓発事業	・実施地域（中川区、花鶴丘1丁目区） ・参加者 53人	日頃からボール体操に取り組んでいる地域に対し、ボール体操を行い、実施方法の確認、新しい体操の体験などを行い、正しいやり方を習得することにより、今後の継続に繋がった。	ボールゲームは盛んに行われているが、ボール体操を実施していない地域が多い。	ボールンピック大会への参加チームを増やすことにより、ゲーム以外に体操が行えることを広め、運動機能の低下予防につなげる。
		運動サポーター養成講座	・運動サポーター養成講座 養成講座回数 8回 延参加者数 32人 ・フォローアップ研修 8回 延べ参加人数 121人	養成講座参加者の2名はすでに地域活動に積極的にかかわっていただき、養成講座で学んだことを地域活動に活かしている。フォローアップ研修も参加者が偏っているが、定期的にフォローを行うことで地域活動の充実につなげている。	地域での運動活動のサポートがゆいのできるということを知らない地域もあるため、地域活動サポートセンターの体制を周知し、介護予防のための運動の推進に繋げていきたい。	来年度より、運動のみに特化せずに、フレイル予防の3本柱である運動・栄養（口腔含む）・社会参加を合わせて、古賀市のヘルスアッププランの4本柱「たべる・うごく・まもる・たのしむ」の要素の講座から選択制にして、マルチな活動を取り入れることをめざす。
		地域で実施されている介護予防運動活動の支援	・支援つどいの場 18カ所	地域活動が定期的に行われている場所には、運動の行い方を確認したり、専門家からのアドバイスの機会を作ったりとフォローアップを行っている。	サポーターのいない地域、運動を始めたい地域へのアプローチができていない。また、サポーター以外が運動活動を行っている地域への情報提供ができていない。	運動を通したつどいの場の格差が広がらないように、運動がない地域にも出前講座などを通してアプローチを行う。
		出前講座 及び 地域での体力測定会	・まちづくり出前講座 回数 37回 ・体力測定会 回数 29回	シニアクラブからの依頼で体力測定を実施した地域が昨年度は15団体だったが、今年度は20団体（内19団体実施済み）と増えた。また、音楽活動を行っているつどいの場でも測定を継続して行っている。	家トレの推進に『運動やってみ隊』、体力測定を実施する『測ってみ隊』とそれぞれ活躍していただいているものの、少数で行っているため、新たな担い手を徐々に見つけていきたい。	まちづくり出前講座及びシニアクラブ連合会、各地域のつどいの場での体力測定を継続して実施。フィードバックの方法を工夫し、よりフレイル予防につなげていきたい。

令和6年度地域活動サポートセンター活動状況報告（1月31日時点）

資料1

事業名	概要	現状報告		成果	課題	今後の取組み
介護予防音楽活動支援事業	音楽を通した介護予防活動を行う人材の育成を実施し、地域の公民館等で介護予防活動を開催して、高齢者の健康づくりや介護予防を推進する。	音楽サポーター養成講座	・音楽サポーター 38人 ・養成講座回数 8回 延べ参加者数 50人 ・フォローアップ研修 9回 延べ参加者数 157人	養成講座では8名が受講中。フォローアップ講座は音楽の活動の講座を5回、運動等の講座を5回行った。 今年度は昨年度の体力と口腔・肺機能測定の実施結果の講座を開催した。	40代、50代の若い受講生の参加を期待したいが、仕事・子育て等でなかなか受講が難しい。新しい人材を呼び込むために、地域活動サポートセンターの活動の周知につとめ、介護予防音楽活動を推進したい。	フォローアップ講座は「たべる・うごく・まもる・たのしむ」の要素の講座から選択制にして、現在の音楽の活動にプラスする活動を取り入れることをめざす。
		地域で実施されている介護予防音楽活動の支援	・支援地域 19カ所	昨年と同様に、12月から3月の期間で、福岡工業大学と測定サポーターの皆さんの協力を得て、測定を希望する地域（19箇所中18地域）で体力と口腔・肺機能の測定を開催。 測定は参加者の励みになっていて、測定結果の説明に興味深く聞いている様子。	5年以上続いている地域の鍵盤ハーモニカ活動では初心者に参加しにくい傾向があるので、今一度、この活動は音楽教室ではなく、健康の維持のために楽しむことが第一であることを再認識し、初心者にも参加しやすいように内容を工夫する。	初めて参加する人にも一緒に楽しめたり、地域の運動活動の集まりに少しでも取り入れることができる音楽活動を今後の課題として取り組みたい。
		介護予防音楽活動紹介	10月20日 福祉まつりの一環として、地域活動サポートセンターゆいにて開催 ・参加人数 209人 ・参加団体 地域での音楽活動を実施している19団体中17団体とゆいさぼの鍵盤ハーモニカ2団体	人出が多い福祉まつりの期間の開催で、駐車場の混雑等で時間通りにプログラムが進行できるか心配したが、滞りなく進行した。また、当初の狙い通り、音楽活動紹介に出演した方が、今まで知らなかった福祉まつりに参加して健康について改めて考えることができたり、福祉まつりの来場者が今回の演奏を聴いたのをきっかけに鍵盤ハーモニカに取組むこととなった例もあった。	演奏による交流の場作りは、日々の練習の励みにもなるので必要だが、今後は演奏だけではなく、介護予防の様々な要素を交流の場に取り入れていきたい。	今後は地域の介護予防音楽活動の交流の場の企画を音楽サポーター主導で行えるよう支援する。
介護予防サポーター活動支援事業	高齢者の社会貢献を促すことで、生きがいづくりに寄与するとともに、地域や高齢者施設等の生活支援や介護予防も併せて進める。	・サポーター登録者数 246人 ・地域・施設等登録数 38カ所		介護予防サポーターとその受入れを希望する施設のマッチングの場である地域交流カフェを計4回実施した。	介護予防サポーターの登録は行っているものの、地域や施設での支援につなげていないサポーターがいる。今後はサポーターに対し、本事業の目的を認識してもらう機会をつくるとともに、地域や施設に本事業の啓発を行い活動の場を増やしていきたい。	2月～3月：サポーターの資質向上、地域活動を支援する取組みを学ぶ研修会を実施。次年度の登録会も併せて実施。
地域活動サポートセンター運営事業	地域のつどいの場や高齢者施設等で行われる健康づくり等の活動を支援するボランティアを養成し、高齢者等の健康の増進及び社会参加の促進を図る。	ゆいサポ教室養成講座 ゆい出前講座	ゆいサポ教室養成講座 ・15教室 ゆい出前講座 ・回数 17回	ゆいサポビギナー（ゆいサポ教室1年目）受講者に対するオリエンテーションを通して、ゆいサポ教室の位置づけを説明し、介護予防サポーターへの認識を深める場を設けることができた。	出前講座の依頼が少なく、地域等に出向く機会が少ない教室がある。ゆいサポ教室で養成されたサポーターのモチベーションアップのために活躍の場を増やしたい。	・R7年度6月にゆいさぼビギナー教室を開講予定。4月号広報等で周知し、幅広い分野で活躍するサポーターの育成を図りたい。 ・各教室において出前講座の活動内容詳細を作成予定。作成したものは地域・施設等への出前講座紹介の際に使用。
外出促進事業	高齢者の社会参加を促し、閉じこもりの予防と健康づくりを推進する。	高齢者外出促進事業	・期間 令和6年7月～令和7年2月4日 ・シール配布対象イベント数 地域：261、行政：56	当事業対象イベント数は地域および行政の両方で増加しており、当事業の周知効果が認められる。	当事業対象イベント数は増加しているものの、一部地域においては当事業への参加がない。理由として、周知が不足していることや取組み内容が分かりにくいことが考えられる。	当事業の目的やマニュアルの整理を行う。 4月からの事業開始に向け、2月の区長会で事業内容の説明、協力依頼を行う。また、7月の応募開始時に、区長会、福祉会、シニアクラブ、市ホームページ、市のLINE等で事業への参加を呼びかけ、広く周知する。
		こがんよか健康ポイントキャンペーン	・期間：令和6年10月1日～10月31日 ・応募人数 55人（当選人数30人）	キャンペーンを通してふくおか健康ポイントアプリを知ってもらうきっかけとなっている。	昨年度に比べ、応募者数が減少した。この原因として周知が不十分だったことが考えられる。アプリとキャンペーンの存在を知ってもらい、高齢者の健康増進を図るためにも周知方法を工夫する。	区長会や福祉会、シニアクラブでの啓発に加え、市ホームページ、市LINE、ふくおか健康ポイントアプリ、市施設にチラシを設置するなど積極的な情報発信を行う。

事業名	概要	現状報告		成果	課題	今後の取組み
生活支援 体制整備事業	地域の支え合い体制の構築の推進。高齢者ができる限り住み慣れた地域でともに支えあい最期まで安心して暮らせるまちづくりをめざす。	地域支え合いネットワーク全体会	・地域支え合いネットワーク全体会議 3月開催予定 ・校区別地域支え合いネットワーク全体会議実施（スタッフ：SC、地域包括センター、保健師、管理栄養士） 参加総数：164人 参加者：区長、民生委員、福祉会長、シニアクラブ会長、校区コミュニティ会長等 11/19花見（21人） 11/2舞の里〈20人〉 11/25小野（21人） 11/29花鶴（21人） 12/5古賀西（26人） 12/7青柳（15人） 12/11古賀東（21人） 12/14千鳥（19人）	地域の現状報告（高齢化率、介護認定率など）を行い、意識共有を図り互助の地域づくりの啓発ができた。また、地域活動実践発表を行い、つどいの場づくりの運営や内容のヒントにつなぐことができた。 グループワークでは行政区を超えて意見交換を行うことで、各地域の課題を共有でき課題解決に向けたステップにつながった。	つどいの場の充実や地域づくりにおいて、地域リーダーとサポーター（有志ボランティア）をつなぐことが課題である。また、サポーターにも地域の現状や担い手不足など地域課題について情報共有を図る必要性がある。	課題解決にむけ協議体（NPO、企業、ボランティア等の参会に広げる）に相談し、地域資源や担い手を探し、既存の地域づくり組織も活用して、地域の支え合いを住民主体で創造するネットワークづくりを図る。
		ネットワーク通信	vol. 18 発行（2024年12月）	生活支援体制整備、及び、地域つどいの場の啓発。 ・各自治区公民館での閲覧配布（3部） ・取材先地域での回覧 ・地域支え合いネットワーク全体会議参加者へ配布 ・福祉会、民生委員会、シニアクラブ連合会員、シルバー人材センター会員などへの配布	情報の見える化を目的に発行するため、多くの情報（データ）を収集し市民に分かりやすいものにする。	継続し、地域包括ケアシステムの構築の深化・推進のための情報誌を発行する。
		介護予防・生活支援 課題別会議	・課題別会議開催予定 2月19日 自治会活動と高齢者、子どもにかかる関係課と情報を共有する。 ・買い物支援にかかる会議実施 2回 ・買い物支援実践	・課題別会議の内容予定 自治会未加入率の増加で希薄化が進む。また、子ども会育成会解散で子ども対象の事業が地域活動において少なくなっている地域課題を共有する。 ・買い物支援に係る問題と課題を関係者と共有する。	2025年問題、2040年問題を見据え地域包括センターと連携し、生活支援体制整備を進めるためのネットワークをつくる必要がある。	・地域主体のつどいの場の充実、社会資源活用に併せ高齢者の介護予防につなぐため関係者と意識共有や情報交換を行う。 ・高齢者の健康づくり・介護予防一体化事業と連携しつどいの場づくりに係る協議を図る。 ・買い物支援に通じる「スマートアグリ事業〈農林振興課〉」と連携し実証実験を継続する。
		SC/CSW連携タイム （SC：生活支援コーディネーター） （CSW：コミュニケーションソーシャルワーカー）	毎月2回実施 参加者：SC（第1層、第2層）、地域包括支援センター、健康づくり係保健師	・第2層生活支援コーディネーター4人を配置し地域（校区別）担当を決め活動中。本年度は、3年目に入り地域状況の把握が充実してきている。 ・地域交流カフェで、介護予防サポーターとつどいの場のマッチングを行い、つどいの場活動に反映できている。	第1層・第2層生活支援コーディネーターの連携や地域包括支援センター、健康づくり・介護予防一体的実施事業の情報共有と課題分析をする必要がある。	・定期的に会議を行い、情報共有や意見交換を積極的に行う。 ・地域主体の「つどいの場」づくりや地域活動サポートセンターの機能を活用し生活支援体制整備の推進を図る。